

# 学校基本情報

学校・校長名	設置認可年月日	所在地
新横浜歯科衛生士・歯科技工士専門学校 学校長 細井 紀雄	昭和51年10月12日	〒 222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目6-10 電話番号 045-472-5101

設置者・代表者名	設立認可年月日	所在地
学校法人 共生学園 理事長 浅野 倉栄	昭和56年4月10日	〒 222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目6-10 電話番号 045-472-5101

分野	認定課程名	認定学科名	専門士告示年月日
医療	医療専門課程	歯科衛生士科	令和2年2月26日 予定

学科の目的	歯科医療の一端を担う歯科衛生士として、必要な専門知識及びその応用を教育すると同時に、社会のために役立つ歯科衛生士を養成することを目的としている。
-------	--

修業年限	3年	昼間・夜間の区別	昼間
------	----	----------	----

学生情報 令和2年度 5月1日 現在	学年別	入学年月		定員	学級数	応募者数		受験者数		合格者数		入学者数			
		1年	2年			3年	計	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦
		2020年4月	2019年4月			2018年4月		9	77	9	77	5	43	5	43
			計	40	1	17	51	14	49	8	38	8	38		
				40	1	15	49	15	48	5	38	5	37		
				120	3	41	177	38	174	18	119	18	118		

  

学年別	増加			減少			在学者数					
	留年者	転入者	計	留年者	転出者	退学者		計	男子 学生数	女子 学生数	休学者	
						一般	推薦					
1年	2	0	2	0	0	0	0	0	50	0	50	0
2年	0	0	0	2	0	1	3	6	41	0	41	0
3年	0	0	0	0	0	0	1	1	37	0	37	0
計	2	0	2	2	0	1	4	7	128	0	128	0

2019年度の 学生情報	卒業 者数 (人)	40	国家試験 受験者数 (人)	40	国家試験 合格者数 (人)	40
-----------------	-----------------	----	---------------------	----	---------------------	----

2019年度国家試験合格者の 就職状況 (人)	病院	0	診療所	0	歯科診療所	36	歯科技工所	0
	保健所	0	歯科衛生士 学校養成所	0	歯科技工士 学校養成所	0	その他	0
	未就職	4	不明	0				

成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆成績表：有</li> <li>◆成績評価の基準・方法</li> <li>・各科目2/3以上の出席日数を満たした者に試験資格が与えられる。</li> <li>・試験結果を各科目100満点とし、A(80~100点)・B(70~79点)・C(60~69点)・D(0~59点)で評価し、A~Cを合格とする。</li> </ul>	卒業・進級条件	◆全科目を履修し、教務委員会の議を経て校長が認定する。
------	--	---------	-----------------------------

授業料等(円)	入学金	300,000	授業料(年額)	500,000
	納付金	1年	2年	3年

その他 納付金 (円)	実習費	100,000	100,000	100,000
	教材費	416,574	119,753	231,597
	合計			

臨地実習施設数(施設)	臨地実習施設	18	臨地実習施設以外の実習施設	4	合計	23
-------------	--------	----	---------------	---	----	----

経済的支援	◆専門実践教育訓練給付： 給付対象
-------	-------------------

学期制度	前期	4月3日~9月31日	開始・終了時刻	月~金	9:00 AM ~ 4:40 PM
	後期	10月1日~翌年3月31日		1	授業あたり 50分授業

長期休業日	夏季	8月5日 ~ 9月6日	冬季	12月21日 ~ 1月4日
-------	----	-------------	----	---------------

## ・長期欠席者及び成績不良者等に対する支援取組

講義に関して	担当講師が授業来校時に、欠席した講義、及び理解不十分だったところの説明・指導を行う。
基礎実習に関して	補講日程を作り、専任教員によるマンツーマンの補講を行う。
臨床実習に関して	成績を学生に伝えながらの個別面談を行い、欠席に関しては予備日程を利用し、補講を行う。
長期欠席者に対して	欠席理由を考慮しながら、夏休み・冬休みなどの長期の休み期間を利用し、補講などを行う。